

小児循環器科

心房中隔欠損症(ASD)、動脈管開存症(PDA)の Amplatzer (アンプラッター) 閉鎖栓を用いたカテーテル治療

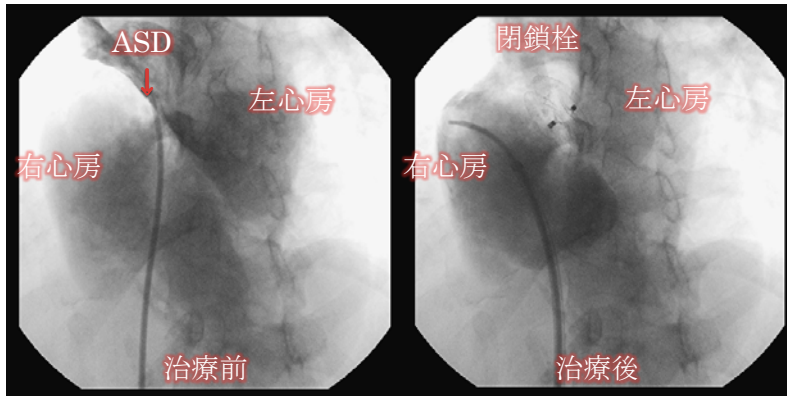
社会保険中京病院は、「心房中隔欠損症」や太い「動脈管開存症」において、胸にメスを入れないで治す「カテーテル治療」を受けることの出来る愛知県唯一の施設です。

当院の特徴は幼児から高齢者まで分け隔てなく治療を受けて頂くことが可能な総合病院であり「小児循環器科」がこの治療を担当しています。先天性心疾患に対する豊富な手術とカテーテル治療の実績の元、心房中隔欠損症は 2006 年から、そして、動脈管開存症は 2009 年からと、いずれも日本での保険治療が可能となった初期から認定施設として承認を受けて導入しております。

現在までの治療総数は、心房中隔欠損症が 200 例、動脈管開存症は 30 例で、いずれも開始当初から各大学病院やセンター病院と相並び、全国 6 番目（中部圏第 1 位）に位置しております。

これまでは治療法導入後間もないこともあり、心房中隔欠損症の患者様向けに特別外来を設けてまいりましたが、2012 年 4 月以降は、これを閉鎖して通常の外来に来ていただいで対応させていただく形式に変更させていただきます。
(2012 年 2 月現在)

心房中隔欠損症(ASD)のAmplatzer カテーテル治療 (ASO)

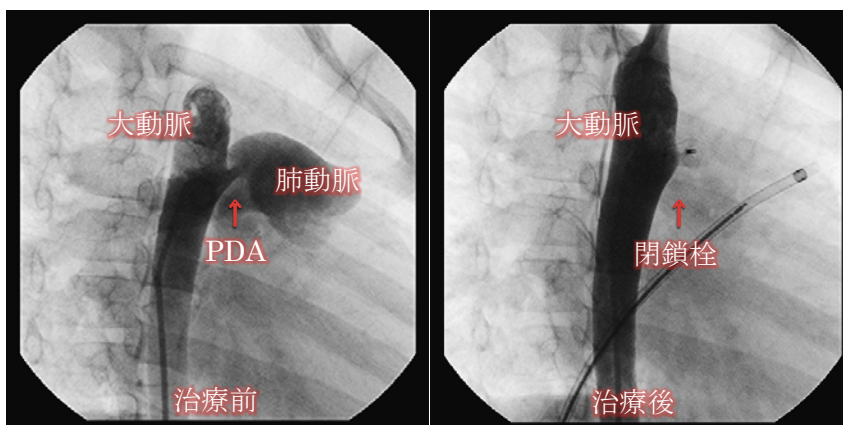


心房中隔欠損症の患者様の中で 7 割くらいの方がこの治療を受けて頂くことが可能です。安全に治療を受けて頂くために、この治療法に向いている欠損孔であるか否かは、食道からのぞく超音波検査（経食道心エコー）で、より正確に判断いたします。そのため、体重は 15kg 以上が望まれます。治療中もこの検査法を利用するため、麻酔科での全身麻酔下に行われています。

2012 年度には太ももの付け根の血管から挿入する心腔内エコーの導入が見込まれています。この検査法での治療が可能な場合には局所麻酔のみで済ませることが出来ます。

重大な合併症には脱落と穿孔による心タンポナーデがあり、発生率はそれぞれ 0.25%と報告されています。

動脈管開存症(PDA)のAmplatzer カテーテル治療 (ADO)



従来、動脈管開存症の患者様においては径 2.5mm 以下ではコイルを用いたカテーテル閉鎖術が行われ、それよりも太いものでは開胸手術を必要とされてきました。

動脈管用の Amplatzer 閉鎖栓の導入により径 10mm までがカテーテル治療可能となりました。適応は体重 6kg、生後 6 か月以上と定められており未熟児動脈管開存症の患者様に
行うことは認められておりません。この治療は麻酔科での全身麻酔は必要としておりません。
これまでに重大な合併症は報告されておりません。

お問い合わせ：小児循環器科まで